

# 2014年3月期 第3四半期業績概要

2014年1月31日

アンリツ株式会社  
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754  
<http://www.anritsu.com>



Anritsu envision:ensure

1

Financial Results FY2013 3Q  
Copyright© ANRITSU

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

# 目 次

---

## I . 2014年3月期 第3四半期 業績概要

### I -1. 事業概要

### I -2. 連結決算概要

### I -3. 2014年3月期 通期業績予想

## II . 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて

---

## I -1. 事業概要



(セグメント別売上比率) **2013年3月期 実績(連結)：947億円**

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

(ノート部記載なし)

## I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

計測: 米州・アジアの大幅伸張に対し、日本市場の需要低迷が継続  
 産業機械: 堅調な日本市場に加え、北米での事業が拡大

セグメント	2014年3月期 第3四半期累計期間(4月-12月) の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイル: LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調</li> <li>・ネットワーク・インフラ: 基地局整備の投資が堅調</li> <li>・エレクトロニクス: 顧客の投資抑制傾向が継続</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本: モバイル関連投資が大幅に減速</li> <li>・アジア: 製造用・開発用のモバイル関連が堅調</li> <li>・米州: スマホ開発・基地局整備の投資が牽引</li> </ul>
産業機械	国内・海外ともに堅調

計測事業の約50%を占めるモバイル計測事業が、引き続いて業績を牽引しました。成長ドライバーは、LTE方式の開発需要、スマートフォン(スマホ)の開発、製造の各用途市場、周波数再編や接続品質改善の無線ネットワークの整備化投資です。

一方で、モバイル通信分野のオペレーター、チップセットおよびスマホベンダーの主要なプレイヤーを巻き込んだ企業買収、事業の縮小撤退などの動きは顕著になっており、バリュー・チェーンの変化や市場ミックスの変化を伴うものとなっています。

地域別の傾向としては、総じて日本を除く海外市場において、LTEおよび端末の開発用途市場で活発な動きがありました。日本市場は、スマートフォンベンダーの事業撤退、投資抑制があり、前年同期比で大きく縮減しました。

産業機械事業は、日本市場と北米市場で前年同期を上回る堅調な需要拡大が続きました。

その他事業の情報通信事業は、公共投資予算の執行に関わる要素が大きいため前年同期と同様の水準でした。

## I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	696	770	74	11%
売上高	677	711	34	5%
営業利益	115*	89	△ 26	△23%
税引前利益	115	93	△ 22	△19%
当期利益	93*	61	△ 32	△35%
当期包括利益	107*	96	△ 11	△11%
フリーキャッシュフロー	66	58	△ 8	△12%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

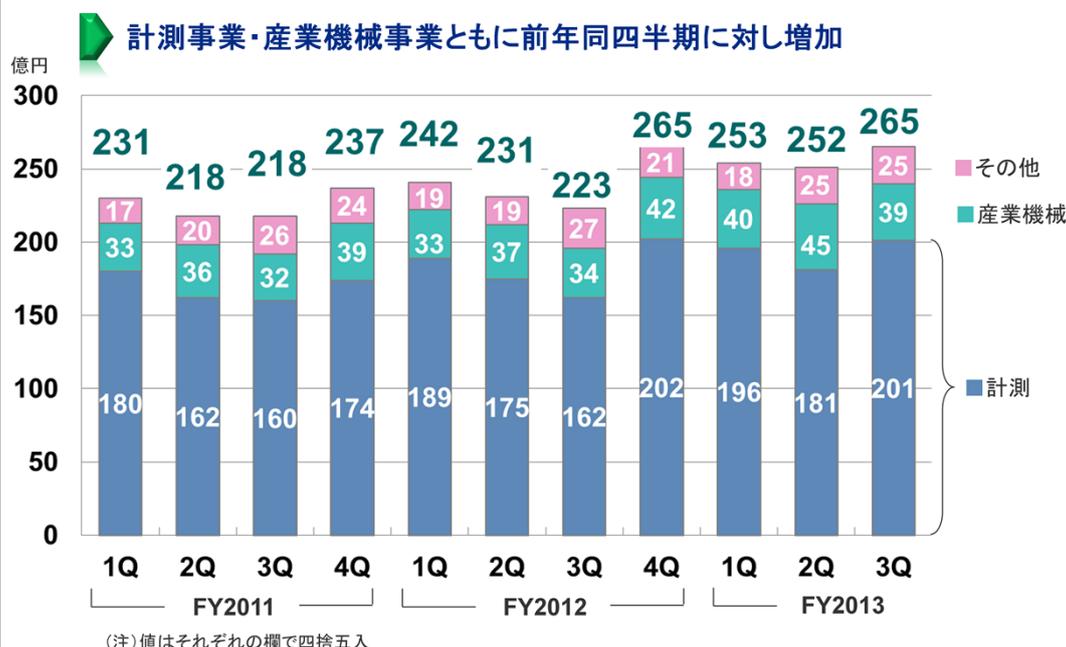
\*前第3四半期連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を適及的に適用し修正しております。  
(修正前数値:営業利益116億円 当期利益94億円 当期包括利益108億円)

受注高は、前年同期比11%増加の770億円でした。

売上高は、前年同期比5%増加の711億円でした。

海外の顧客対応のための体制強化および整備化投資は、着実に受注高、売上高の伸長および売上総利益の増加として成果を上げました。一方で国内計測市場の急激な縮減の影響に加えて、開発投資を含む海外グループからの調達費用が円高修正(円安)によって増加したため、営業利益は前年同期比23%減少の89億円となりました。税引前利益は、円安に伴う為替差益が金融費用を上回り、93億円となりました。四半期利益は前年同期比35%減少の61億円でした。包括利益は、在外営業活動体の為替換算差額32億円を計上した結果、前年同期比11%減少の96億円となりました。

## I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2013 3Q  
Copyright© ANRITSU

計測事業の受注高は、前年同期比24%増加の201億円でした。産業機械事業の受注高は、前年同期比13%増加の39億円でした。グループ全体としても前年同期比19%増加の265億円でした。

計測事業の受注高は、当年度の各3四半期とも前年同期を上回る水準を確保しましたが、海外市場での受注拡大が日本市場の落ち込みを補う結果となりました。2012年度上半期の日本市場でのモバイル関連の設備投資が活発であったこともあり、前年同期と比較して、市場別の受注動向は大きな変化となりました。

産業機械事業は、日本の大手食品メーカーの設備更改需要や北米市場での異物検出市場の大幅な拡大がみられました。

## I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位: 億円)

		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	517	540	23	4%
	営業利益	113*	85	△ 28	△25%
産業機械	売上高	101	119	18	18%
	営業利益	3	8	5	196%
その他 (含: 内部消去)	売上高	59	52	△ 7	△11%
	営業利益	△0	△4	△ 4	-
合計	売上高	677	711	34	5%
	営業利益	115*	89	△ 26	△23%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

\* 前第3四半期連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。  
(修正前数値: 営業利益 計測 114億円 合計 116億円)

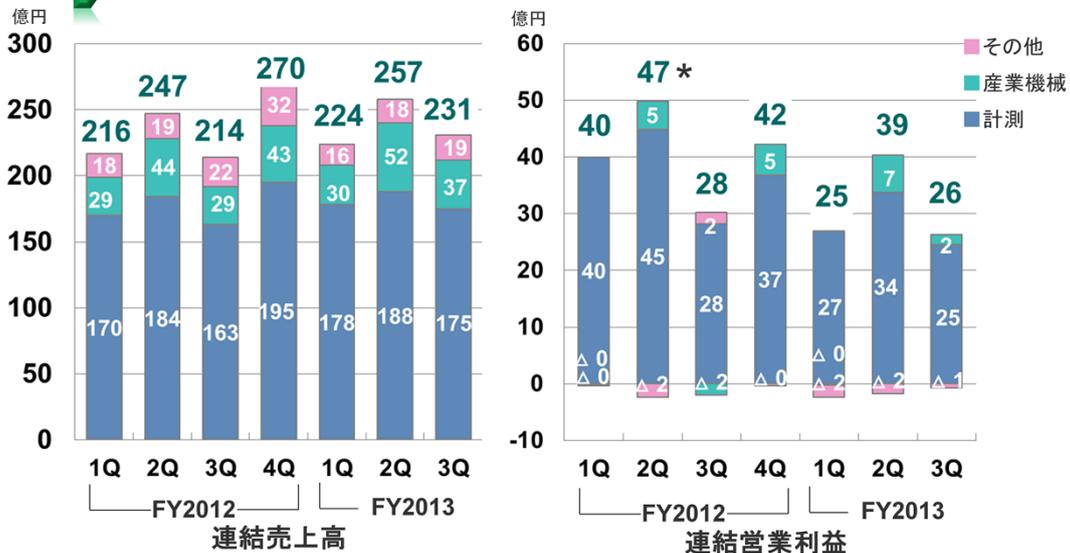
計測事業は、前年同期比4%の増収の売上高540億円となり、営業利益85億円、営業利益率15.8%でした。

計測事業の営業利益率が前年同期より減少している理由は、海外市場の受注拡大の成果や円高修正(円安)に伴う増益要因はあるものの、日本市場の大幅な縮減の影響が主な要因であり、加えて海外の顧客対応のためのローカル体制の拡充に関連した人員と費用も増加していることによります。

産業機械事業は、前年同期比18%増収の売上高119億円、同196%増益の営業利益8億円でした。

## I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期計画に対する第3四半期までの進捗: 売上高70%、営業利益52%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

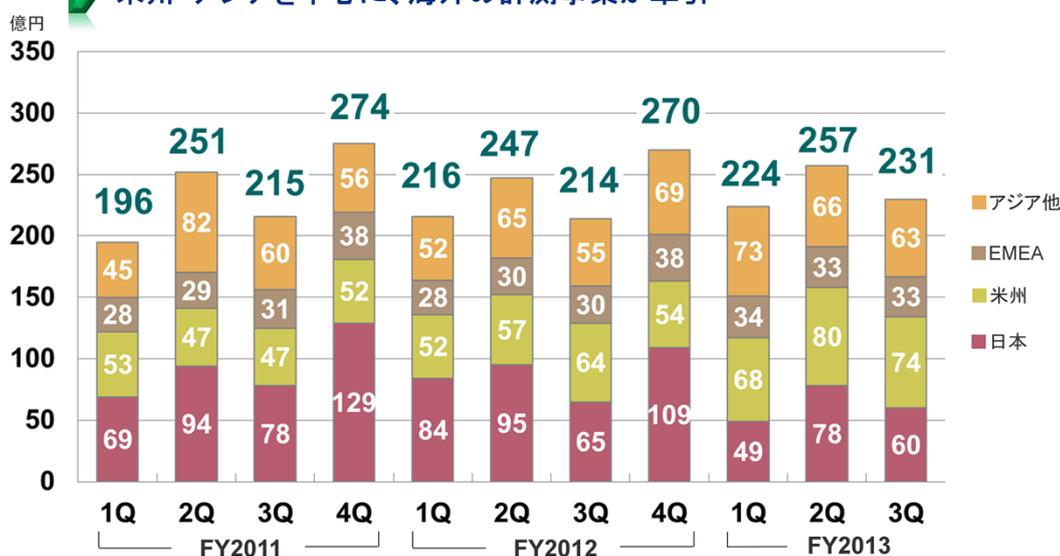
\* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 2Q連結営業利益48億円)

四半期単位の利益率は、市場ミックス、事業ミックス、プロダクトミックス、季節変動などにより変動します。なお、第3四半期までの2013年度通期計画に占める進捗率は、売上高で70%、営業利益で52%でした。

なお計測部門の四半期単位の営業利益率は、第1四半期15.2%、第2四半期18.0%、第3四半期14.1%でした。

## I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

米州・アジアを中心に、海外の計測事業が牽引



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

日本市場の売上高が大幅に減少したことにより、その地位も相対的に低下しました。ちなみに、地域別の売上高構成比率に占める日本市場の割合は、2012年度第3四半期(4～12月累計)の36%から、2013年度第3四半期(4～12月累計)は26%まで、大きくシェアを低下させました。日本市場での売上高は第3四半期(4～12月累計)期比較で前年同期比23%の減収となりました。

これは、日本の有力なプレイヤーによる、スマホ事業からの撤退、縮小や製造ラインの設備投資抑制による影響です。

一方で、米州市場はLTE関連の開発需要が引き続いて伸長しました。アジア市場ではLTE開発用途およびスマホ製造市場の両面で動きが見られるなど、前年同期比で増加しました。

## I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位: 億円 △減少

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 3Q(累計)

①営業CF: 102億円

②投資CF: △44億円

③財務CF: △40億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 58億円

現金同等物期末残高

414億円

有利子負債高

191億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に季節的要因でもある売上債権の回収増を含む運転資本の効率的運用に取組んだ結果、102億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは14.4%となりました。

投資キャッシュフローの設備投資28億円のうち、主なものは福島県郡山市における新工場建設のための費用11億円です。なお新工場は、2013年7月初旬に稼動しました。

その結果、フリー・キャッシュフローは58億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの40億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い32億円です。この内訳は、前年度の期末配当(1株あたり12円50銭)と中間配当(1株あたり10円)の支払い分です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、為替換算差額19億円もあり、期首残高より37億円増加の414億円となりました。

### I -3. 2014年3月期 通期業績予想(連結)


**連結利益業績予想を下方修正**  
**配当予定は変更なし(年間20円(うち期末10円))**

(単位: 億円)

		2013/3期	2014/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/25発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		947	1,020	1,020	73	8%
営業利益		157*	170	143	△ 14	△ 9%
税引前利益		161*	165	143	△ 18	△ 11%
当期利益		139	115	95	△ 44	△ 32%
計測	売上高	712	770	770	58	8%
	営業利益	150	155	132	△ 18	△ 12%
産業機械	売上高	144	155	160	16	11%
	営業利益	8	10	11	3	35%
その他	売上高	90	95	90	△ 0	△ 0%
	営業利益	△ 1	5	0	1	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 第4四半期 想定為替レート: 1米ドル100円、1ユーロ=135円

\* 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 営業利益158億円、税引前利益162億円)

Anritsu envision: ensure

12

Financial Results FY2013 3Q  
Copyright© ANRITSU

2013年度の通期業績の見通しは、4月25日に発表した計画を変更します。

変更する理由は下記のとおりです。

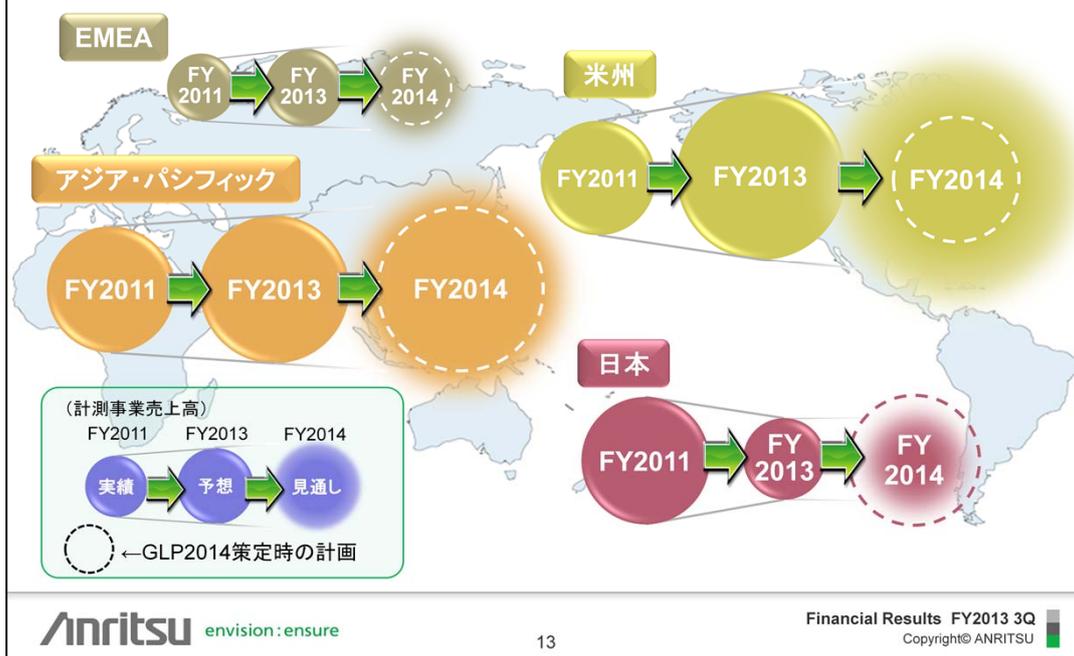
計測事業において、北米を中心とした海外のモバイル市場は堅調に推移し国内市場の落ち込みを挽回しているものの、国内市場の需要低迷が継続していることから、売上収益については期初計画の達成を見込みますが、営業利益について下方修正します。

産業機械事業については、堅調な国内需要と北米での売上拡大により売上収益・営業利益共に上方修正します。また、その他事業ではデバイス事業の不振により売上収益・営業利益について下方修正します。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正、為替差益の計上による金融収益の改善、及び、復興特別法人税廃止による税金費用への影響等を織り込んで修正しております。

なお、配当につきましては、期初計画どおり 1株当たり年間20円(うち期末配当は10円)を予定しております。

## Ⅱ. 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて (1) 市場ミックスの中計からの変化



中期経営計画GLP2014の最終年次にあたる2014年度計画に対する、今回の2013年度業績予想の変更の影響は、2013年度の通期業績発表時に挽回策も含めて発表する予定です。なお今回の発表でも明示したとおり、市場ミックスに中計立案時から大きな変化が生じています。すなわち、日本市場計画が中計目標に未達になる一方で、モバイル・ブロードバンド市場を主導するプレイヤーが集結する北米およびそれらの北米以外の開発拠点地域、そして昨年12月にTDD-LTEライセンスが許可され、LTE普及が本格的にスタートした中国市場などは、中計目標を上回る需要が期待されます。

## Ⅱ. 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて (2)

### モバイル市場の劇的な変化

- ①チップセットベンダーのリファレンスデザインによる端末製造市場の主導とスマホのコモディティ化
- ②OTT(Over The Top)プレイヤー\*によるモバイルサービス市場の主導
- ③競争の激化と世界的再編によるプレイヤーの入れ替わり

\*OTTプレイヤー：通信事業者を介さず既存のプロードバンドネットワーク上でコンテンツサービスを提供する企業



- ① 多様化する顧客ニーズに応えるソリューションの提供
- ② 市場を主導する顧客の獲得とシェア向上
- ③ グローバルな顧客対応力の強化と整備

この市場ミックスの変化の背景には下記のような事象が見られます。

- (1)チップセットベンダーのリファレンスデザインによる端末製造市場の主導とスマホのコモディティ化
- (2)OTT(Over The Top)プレイヤーによるモバイルサービス市場の主導
- (3)こうしたモバイル・ブロードバンド市場の上流からと下流からとのバリュー・チェーンの変化は、オペレーターも巻き込んだ競争の激化と業界再編を生み、市場を主導するプレイヤーの交替が起きています。

アンリツは、スライドに掲げた基本方針および施策によって、この市場変化に適切に対応することを通じて、お客様から信頼されるグローバル・マーケット・リーダーとなり、中計GLP2014の目標達成に挑戦していきます。

## The New Brand Statement

# envision : ensure

As a leading supplier of mobile communications test solutions, Anritsu supports the industry through a visionary partnership, to innovate for tomorrow's society. With almost 120 years' experience within electronics and telecoms, Anritsu is a true forward looking innovator in the business. Together with customers we can envision and ensure future mobile infrastructure.

アンリツはブランディングの再構築プロジェクトに取り組んできました。その成果として、このたび新しいブランド・ステートメントを発表します。本格的なお目見えは、スペイン、バルセロナにて2月24日より開催されるMWC(モバイル・ワールド・コンGRESS)の場となります。

[ envision:ensure ] に込めた思いは、『お客様と夢を共有しビジョンを創りあげるとともに、それをお客様の期待を超える確かなかたちあるものへと創りあげます。そのイノベーションすなわち価値創造活動の無限のスパイラルを回し、信頼されるアンリツへと成長し続けていきます』というものです。

2015年に創業120周年を迎えるアンリツは、創業以来、情報通信、エレクトロニクス分野を軸に、社会の、市場の、お客さまの課題解決に挑戦し、信頼を獲得してきました。私たちは、「誠と和と意欲のアンリツ」、高い社会価値、顧客価値を創造する「オリジナル&ハイレベルのアンリツ」のDNAを、新しいブランド・ステートメントにも継承しました。



株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2014年3月期第3四半期の業績報告とします。